

## 【中学生の部】審査員賞

### 『君の臍臓をたべたい』（住野 よる／著）

五戸町立五戸中学校 1年 寺西 香月葉

「死ぬ」ということを常日頃から考えて生活する人は少ないと思う。しかし、病気を抱える人も、健康な人も、1日の価値は同じ。そういったことをこの本から教えてもらった。

私は、同級生の友達が病気で亡くなってしまった経験がある。その時かわいそうと感じた私は、幸せで、そして愚かだと思う。めぐまれた環境故に、その子より自分が早く死ぬことはない勝手に決めつけていた。だからそんな高慢なことを思えたのだ。明日必ず生きている根拠など、私も、家族も、友達も、町を歩く赤の他人も持ちあわせてはいない。

私は今後、いつ終わるか分からない毎日を大事に生きようと思う。今を生きている全世界の人々にすすめたい1冊だ。

### 『DIVE!!』（森 絵都／著）

青森市立新城中学校 3年 工藤 ケンゾウ

今からほんの少し前、毎日考えていたことがある。「水泳辞めようかな」コーチとの人間関係の悪化、自分の体が思うように動かない。「自分には無理だ、自分にはできない」そんな思考に毎日陥っていた。こんなダメダメな私を救ってくれたのが友達だった。この作品は、三人の学生が飛び込み競技でオリンピックを目指す物語だ。三人の学生は共に高め合いながら、それぞれの試練や悩みを乗り越えていく。自分一人ではできないようなことでも、友達とだったら、ライバルとだったらできる、そんなことを教えてくれる。私を私らしく変えてくれたこの本は、どんな時でも、いつまでもあなたの心に深く寄り添ってくれるはずだ。

### 『4TEEN』（石田 衣良／著）

五戸町立五戸中学校 2年 川村 海月

「友達ってどういう存在なんだろう。」僕が生きている人生のなぞの1つである。そのなぞをこの本が解いてくれた。主人公含める思春期男子4人組。いつも変なことばかり考えてふざけているが、仲間のことになると、みんな協力して助ける。そのような友達に僕は憧れをいだいた。しかし、そのような存在が僕の近くにもいたのだ。しかも、何十人もいるのだ。その人たちは、常に仲間のためならどんなことでも協力して乗り越えていくのだ。僕はそんな友達に支えてもらって生きているのだと気がついた。このようにこの本は友達について深く考えることのできる本となっている。友達について考え直したい人は、ぜひ1度、手にとって読んでみてほしい。